



報 廣  
ま  
じ  
だ  
い

昭和44年1月10日発行  
 第129号  
 東頸城郡松代町公民館  
 館長 富沢 清次  
 電話 松代 1番  
 印刷 松代印刷所



ゆきのふるさと

青いお空と

かわいらしい赤トンボに

さよならノして

白い雪ンコに

こんにちはノっていう時

父ちゃんや兄ちゃんは

もういない

遠くの高い山が

白くなってくる

父ちゃん寒くないかい？って

心の中でさゝやきかける

スッポリ冷たい雪に包まれて

眠むっているような

松代だけれど

春になると

パァーッと明るくなって

父ちゃんも元気で帰ってくる

冬はいやだけれど……

そんな春を待ってしよう！

関谷 静子

# 年頭の辞



松代町長 柳 幡 蔵

皆さんおめでとうございます。まずお互い健康を喜び合いたいと思います。

農業技術の発展により、四十二年秋には未曾有の大豊作があいつぎ、四十三年秋に史上第二の豊作の結果、本県百万トン米作り達成運動も作況指数一〇八%、八六万トンの成果をあげ、本町も供出米五万九千俵の喜ばしい年を越しました。

然し本年は予約米減税、生産米価、政府貯蔵、集荷配給制、消費者価格、食管赤字等、米をめぐる何等かの形で農業に及ぼす結果が予想され、前途はなほだ多難な点があります。政府は輸入品目の自由化、総合農政等につき、政策作定中であり、単作農業地帯における我が町の農業に及ぼす問題も当然おこる可能性が充分考えられます。

私はこの機会に将来十年後の松代町の将来を長期展望にたつて、文教、産業経済、建設、金融等各専門家の御協力を得て長期計画を四十四年度から実施致したい所存であります。

産業構造の高度化のテンポは非常に急速に進行している上、全国平均毎年四%の農業人口の減少です。二〇%を割り、本町もその例にもれず、県下でも三指に数えられる過疎地帯であり、これが当面の解決策としては、より一層農道の整備や新設、更に今後農地基盤整備事業の促進による農業拡大に対する施策、畜産の多頭飼育の奨励等、関係機関の総意を結集して其の成果に努力いたしたい心算であります。

幸い多年の県案でありました農業協同組合の合併も、組合員各位の御理解によって四十四年度から大松代町農業協同組合として発足することになり、ご同様喜びに堪えませぬし、農業再建のため、幾多の融資制度を強力に進めて行く上にも、また町行政上における基本的視野に基づき協力しながら推進して行く上にもプラスの点を深く期待するものであります。

然しながら、いかなる良策も町民各位の御協力なくしては実行は至難であります。

お互いに論議をつくす処はつきし、お互いの融和をもつて町政発展のため、御協力をお願い申し上げます。年頭の御挨拶といたします。



松代町公民館長

## 富沢清次

新年おめでとうございます。明治百年も、あわただしく幕を閉じて、ここに百一年の第一歩を踏み出すことになりました。

およそ改まるということは、人間生活にとって、きわめて大切なことで、心が改まれば、見るもの聞くもの、すべてが新しく見えます。初日と称し、元日と称しても別に、平日と異った日の光がさすわけでもないが、改まった気持ちで見ると、初日の光は、特に神々しく有難く見える。一年三百六十五日のスタートを切る「元」になる日は過ちのないように、心身を清めて、まず初詣でをする。こうして改まった心を持つことが即ちめでたいのであります。去年の失敗苦勞は、持越すことなく、煤払いの如く払って、今年の運命を切り開くべく改まって新しい年を迎え

る。年々これよき年、よき元日を迎えて祝福するところに意義があるものと思えます。

殊に徳川幕府が倒れて封建国家から、近代国家に踏み出した明治維新から一世紀を過ぎて最初の第一年を迎えた日本も、内外共に多事多端だと思えますが、我が松代町にとつても、いろいろの問題が山積していると思えます。

教育に係った問題でも、まず昨年来絶大な御支援をいただきました松代小学校の改築工事も、この九月中には竣工する筈であります。学制発布の翌明治六年に長命寺を借用して創設された、学校も今や、鉄筋コンクリート三階建の堂々たる近代的校舎として生れ変わる意義は実に深いものがあると思えます。

一昨年から始められた各部落公民館も、お蔭様で着々整備されて来ましたが、その活躍が大いに期待されています。

尚、各種体育施設の整備、教員住宅の新築、その他学校統合推進の問題、青年教育、家庭教育の振興等数々難問題がありますが、幸いに皆様方の御理解、御支援、御協力を賜ることによって当為本来の相において徐々に解決されますことを心から念願いたしましてここに御粗末ながら年頭の御挨拶に代えさせていただきます。

## 賀正

町内の皆様、明けましてお目出度う御座居ます。編集の一同、心から皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

お蔭様にて旧年は広報紙も九月より毎月発行することになり、町のニュースを出来るだけ多く、皆様のお手元へ届けるべく考えつゝ編集させていただきました。

まだ至らない点は多々ありますが皆様の広報として、今年も全員手わけで取材に当たりたいと思っておりますので、皆様の御協力を切にお願い申し上げます。

又この広報は出稼ぎ先の方々にもお送り下さいます様、重ねてお願い申し上げます。

広報編集委員会一同

# 昭和四十四年度町議会開かる

## 補正予算五十万円を追加

新年度第一回の町議会は一月八日午前十時より開会され補正予算特別会計国民健康保険事業補正予算等上提された原案を議決いたしました。

当日議決をみたものは次の通りです。

**議第一号** 松代町議会の議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について。

**議第二号** 松代町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について。

**議第三号** 寒冷地手当の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について。

**議第四号** 松代町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例の制定について。

**議第五号** 昭和四十三年度松代町

### 一般会計補正予算

収入の部	五〇六千円
地方交付税	四九四千円
諸収入	一二千円
支出の部	五〇六千円
給与改定による金額	

**議第六号** 昭和四十三年度松代町特別会計国民健康保険事業補正予算

**議第七号** 昭和四十三年度松代町特別会計建設機械施設事業補正予算(項目の変更のみ)

**議第八号** 昭和四十三年度松代町特別会計簡易水道事業補正予算(項目変更のみ)

**議第九号** 昭和四十三年度松代町特別会計農業共済事業補正予算

収入の部	二一六千円
家畜事業収益	一五〇千円
業務事業収益	六六千円
支出の部	
家畜死亡事故二頭分	一五〇千円
一般管理費	六六千円

## 故郷でお正月を……

### 帰省バス一斉に町内へ

出稼ぎ対策の一貫として、かねてお知らせしてありました正月帰省バスが今年も暮れの二十九日を皮切りに三十日、三十一日と東京、大阪、名古屋、沼津の各方面より



続々と町役場前に到着し、前日より指折り数えて待ちわびていた家族の人を喜ばせました。今回この帰省バスを利用された方は七九〇名で出稼者総数の七八%になり、年々数多くの人達が雪の故郷の正月にかけつけられたわけです。

二十九日は東京三台、沼津一台



名古屋二台の計六台が第一陣として乗組み、三十日は大阪二台、沼津一台の計三台、三十一日は東京十台、名古屋二台の計十二台が到着したものです。

町はずれに姿を見せた帰省バスは、安塚警察署のパトカーを先頭に、直江津からの途中通過を町役場に連絡しつつ、午前九時頃、約二ヶ月間をそれぞれの県で暮らした人達が元気な顔をみせ、かけよる家族の人々と笑顔を交わしつつ、共に帰宅する情景に関係者はその成功を喜び合いました。

役場前には関係者を初め多数の人の出迎えがあり、各職場のリーダーがそれぞれ挨拶を交わし、共に途中の無事と職場の慰労をたよえつつ、この帰省バスの意義をかみしめ合いました。

尚町では正月中の道路確保を図り、直江津間への人員輸送を三日より計画し、それぞれ手配しましたが、大晦日より降り出した豪雪は降り止まず、遂に実現出来ませんでした。その為多くの人たちは上・信越線の復旧をまって、それぞれ、十日町方面、直江津方面に歩かれたことは遺憾な事でした。

## 受験料、会費などの送金に

### 郵便局の定額小為替

二月は大学の入学願書提出の月です。郵便局で受験料を送る方法には、郵便為替、現金書留などがあります。

中でも一番簡単に送料が安く、安心して送れるのが「定額小為替」です。定額小為替は、百円未満の端数をつけない小額の送金にたいへん便利です。

証書の種類は、百円、二百円、三百円……という風に百円きざみに千円までと、千五百円、二千円、二千五百円、三千円があります。受験料、同窓会費、寄付金、通信販売代金などの送金にお使いください。

料金は千円まで十円、二千元まで二十円、三千元まで三十円。受取人を指定しておけば普通郵便で送っても安心です。

# 「お目出度う」

## と笑顔を交す

### 町内各地で年始廻りを改善

新生活運動が町内各地で叫ばれその一貫として正月の年始廻りの改善が各部落においても真険に考えられそれぞれ、簡素化と意味深い行事を行なっておられることは意義あることと思われます。

大字松代区では、十時のサイン(時報)と同時に町公民館に一家の主人、青年、婦人等が集まり(約二百名)区の事務局の合図と共に国歌斉唱し、区長年頭の祝辞につづいて、神酒(茶吞茶わん一ぱい)を集った人全員がくみ交わし「お目出度ございます」とお互い新年を祝い今年の幸多きことを祈りつゝ万才三唱を行い、閉会後は各戸の年始廻りを一斉に廃止してすでに三年目ですが、兎角忙しい思いをする正月ですので、多くの人達から喜ばれています。従来は年始廻りに午前中かゝり、然も朝早くからですので、健康的に考えなければと言われたものですが、年始会で一同に集り、お互いの挨拶が互わされることによって、一家のお母さん方に大変喜ばれています。

### 昭和四十三年度の繭の実績は

一九・二五九kg

昭和四十三年年度の養蚕実況統計がこの程町産業課より発表になりました。これによりますと取繭実数は昨年度よりやゝ落ちていますが、これは全面的に後退したということ

昭和43年度養蚕統計

農協名	養蚕戸数	掃立数量	
	戸	箱	kg
松代農協	286	452.00	
山平	85	80.00	
奴奈川	64	26.50	
計	435	558.50	

  

農協名	上繭	玉繭	屑繭	計
	kg	箱	kg	kg
松代農協	14.675	28	743	15.446
山平	2.601	10	118	2.729
奴奈川	993	5	86	1.084
計	18.269	43	947	19.259

  

農協名	箱当取繭(上繭)	前年対比
	kg	%
松代農協	32.5	97.3
山平	32.5	88.4
奴奈川	37.5	112.3

  

K 当り繭単価			
農協名	春蚕	夏蚕	秋蚕
	円	円	円
松代農協	1,002	854	867
山平	981		852
奴奈川	1,006		875

## 農協合併予備契約 調印される

又清水部落などでは早くから年始廻りは廃止しており、一家そろっての元朝をゆつくりと迎えることにしています。田沢部落では元朝に村中神社に集まり、今年の多幸を祈りつゝ、各自持参の重箱を開いて、そこで神酒をくみ交わし、年始廻りを行なっています。その他、各部落でも、それぞれ実状に応じて、意義のある、しかも家族そろってゆつたりとした元日をおくるべく、話合いが行なわれ、実施されています。

農協の合併についてはそれぞれ関係農協での話合いが続けられてはありますが、農業構造改善事業として、東山、孟地、蓬平などが増園計画を計て、その方に力をそゝいだため減収となったのが、来年度から増収することは事実であり、単作農業地帯における農家経営の今後一つの姿を示してくれることでしょう。以下本年の統計の概要です。

きたが、去る十二月十八日より三日間にわたって財務評定が行われどの農協も運営が健全であるとの評定がなされました。ついで一月七日農協組織整備協議会が開かれその席上で合併の予備契約の調印が行われました。このあと一月二十日に各農協が一勢に総会を開き、原案通り承認されるよいよ、四月一日から新しい松代町農業協同組合が生れ、政治と経済が一つとなって町作りに協力することになります。



## 道路の憲法

毎日降る雪を恨みながら重い腰をあげてふむ朝の道つけ、雪さい降らなかつたらなあ！とつくづく思う。

それにしてもその毎朝ふむ道つけに、昔からの不文律のあることを忘れている人が多い。特別の事情があるものは別だが、人が通り初めるまでに、村と村の間まで、家と家の中間までふむ——。これが冬の道つけの憲法である。その道踏にも、

自分の家の小路の道つけと、公けのための道つけと二通りある。この憲法は自分の小路でなくて公の道のことを言っている。よくここは俺あ地所でないから道をつけないとか言う人が居るが、道には自分の家の小路を除いては個人有のものは無い、町道は町が、県道は県が、国道は国が所有している。

こうした雪に埋れる故郷を少しでも住み良くするために、知らず知らずの間にきめられたのがこの憲法である。朝道ふみに出て隣の人が一米でも二米でも余計にふんで置いてくれると、つくづく温い隣人愛を感じ明日は俺が早く起きてふんでやろうという気になる。住み憎い雪国ではあるが、こうして憲法を身につけて、隣人愛で少しでも活し良い町を作りましょう